

2回目の「くまびで作ろう！」

熊野古道なかへち美術館(田辺市立美術館分館)で、講師のアーティストと一緒に作品をつくるワークショップ「くまびで作ろう！」の第2回目をこの3月末に開催しました。昨年度に引き続き今年度も和歌山県立近代美術館と協力して進めたもので、共通のアーティスト、橋本知成さんを、県立近代美術館では昨年夏の夏に開催された展覧会「なつやすみの美術館13 feat. 橋本知成」のゲストとして、田辺市立美術館では「くまびで作ろう! ②『モルタルでベンチをつくろう!』」の講師としてお招きしました。

橋本さんは1990(平成2)年和歌山県湯浅町生まれの陶芸家で、独特の質感を持った、球や立方体といったミニマルな形の陶作品を制作し、時にそれをモルタルで作った造形と組み合わせで発表しています。その作品は国際的に評価され、イギリスのヴィクトリア&アルバート美術館やアメリカのロサンゼルス・カウンティ美術館等にも作品が収蔵されています。

「くまびで作ろう!」2回目のワークショップは、橋本さんが作品の素材にしているモルタルを使ってみんなでベンチをつくるという内容でした。はじめに展示室の橋本さんの陶とモルタルを組み合わせた作品の前で、二つの素材の違いのおもしろさや制作についての話を聞き、その後搬入口に移



橋本知成さん photo : Gentoku Katakura

(学芸員 知野 季里穂)

INFORMATION

特別展 Tomonari Hashimoto Untitled

会 場／熊野古道なかへち美術館
会 期／2024年4月13日(土)～6月16日(日)
開館時間／午前10時～午後5時
(入館は午後4時30分まで)
休館日／毎週月曜日
(ただし4月29日・5月6日は開館)
4月30日(火)・5月7日(火)
観覧料／400円
学生及び18歳未満の方は無料

7回目の「現代の織」

当館が2017(平成29)年から開始した、現代的な織の造形を展開する日本の代表的な作家の特別展シリーズ「現代の織」は、一昨年末までに6回の開催を重ねてきました。主に1970年代から現在に至るまで、新しい織の造形を追求し、個性的な表現を築いて創作を続けている作家を、一人ずつ特集して6名を取り上げてきました。

繊維を織って生み出されるものは、布地をはじめ、私たちの生活に欠かせない、ごく身近なものですが、芸術としての織の造形は、まだまだ接する機会の少ないものだと思います。その魅力を伝え、親しみをもっといただくために、作家から展覧会にあたっての言葉を寄せていただいて揭示し、可能な限り会期中にお越しいたいて、会場で自身の制作について語っていただく、アーティスト

トークの場をつくることも心がけています。

「現代の織」で紹介している作家は皆、国際的な評価を得てきています。織による新しい表現が切り開かれてきた20世紀後半の世界的な動きに早くから参画し、賞賛されてきた日本の作家たちの技術と感性は、今後も国内外で繰り返し注目され、作品は長く鑑賞されてゆくものになるはずです。そのことを意識して、当館では作品の展観とともにコレクションの形成にも努め、昨年度末までに6名の作家の作品を57点収蔵することができています。

今夏には7回目の「現代の織」を、熊野古道なかへち美術館(田辺市立美術館分館)において佐久間美智子(1945～)の特集として開催します。1973(昭和48)年にローザンヌ(スイス)で開かれたタピスリー・ビエンナーレへの出品作から、最新の作品までを一堂に集めて会場を構成します。また、同じ会期で田辺市立美術館(本館)において織作品のコレクションを展示しますので、ぜひこの機会に両会場で優れた新しい織の造形の世界を堪能していただきたいと思います。



佐久間美智子《Breathing -Ⅳ》2021(令和3)年

個人蔵 (学芸員 三谷 渉)

INFORMATION

特別展 現代の織Ⅶ 佐久間美智子

会 場／熊野古道なかへち美術館

小企画展 織の表現 2024

会 場／田辺市立美術館

会 期／2024年7月6日(土)～9月16日(月・祝)
開館時間／午前10時～午後5時
(入館は午後4時30分まで)
休館日／毎週月曜日
(ただし7月15日・8月12日・9月16日は開館)
7月16日(火)・8月13日(火)
観覧料／熊野古道なかへち美術館 400円(320円)
田辺市立美術館 260円(200円)
学生及び18歳未満の方は無料
()内は20名様以上の団体割引料金

新収蔵作品について

昨年度は、2点の作品を購入し、15点の作品をご寄贈いただきました。

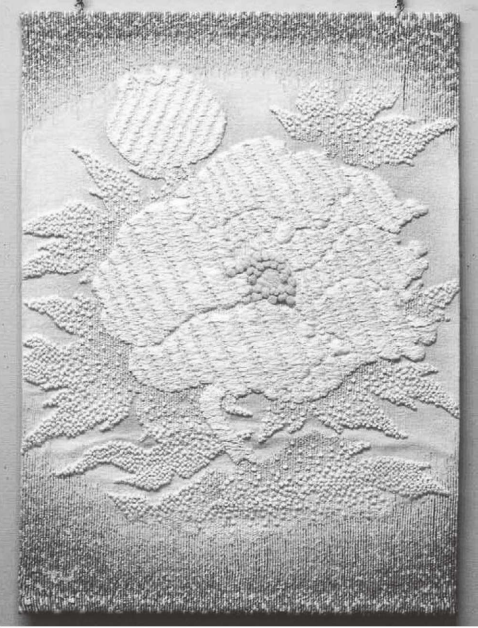
購入した作品は、一昨年度に展覧会を開催した湯川雅紀(1966～)の近作《Colors》(2021年／197.0×333.0cm)と、3年前に亡くなった潮隆雄(1938～2021)の遺作《白韻清々》(2002年／178×126cm／タピスリー ※右の図版)です。

湯川の油彩画《Colors》は、特徴的な色面の重なり構成によって、深みのある色彩の表情と複雑な空間が生み出される近年の制作を代表するものの一つで、2022(令和4)年に開いた「湯川雅紀 2011～2022」展の会場でも特に注目される作品でした。また、同展にドイツでの活動期間中の作品として参考出品した《Haru》(2002年／125.0×450.0cm)と、帰国後間もなくの新たな試みを伝える作品として出品した《日輪》(2010年／91.0×116.7cm)の2点はご寄贈いただくことになりました。※《Haru》については、今号の表紙に図版と作者から寄せていただいた言葉を掲載しています。

潮のタピスリー《白韻清々》は、色彩を抑制して素材と技法の作りだす質感の表現を追求していた50歳代後半から60歳代にかけての時期の頂点をなす制作の一つで、綴織を基礎にしながら独自のものを含む様々な技法をこらし、織作品ならではの陰影と発色による余情を湛えた作品として完成しています。本作以外にも遺された作品10点を、ご遺族からご寄贈いただいて収蔵しました。これらの作品は、今夏の「織の表現 2024」展で集中して展示する予定にしています。

上記の他に、長らく当館に寄託されていた神原泰(1899～1997)の油彩画1点と、小堀進(1904～1975)、真野紀太郎(1871～1958)の水彩画それぞれ1点ずつをご所蔵者からご寄贈いただいています。※寄贈作品の詳細は下の表上段

潮隆雄《白韻清々》 2002(平成14)年



一昨年度から行っている、渡瀬凌雲(1904～1980)の関連資料として保管してきた一群の中からの作品への登録換を昨年度も行い、27点を追加しました。前回と同様に、遺品資料としてご遺族から一括してご寄贈いただいていた中から選定したものです。※登録換作品の詳細は下の表下段

昨年度の新たな作品収蔵も、これまでの展覧会の開催や調査、研究を通じて関係を深めてきた、作家、作家のご遺族、作品のご所蔵者の方々からのご寄贈が主たるものでした。当館の活動へのご理解によって、コレクションが拡充してゆけていることを、たいへん嬉しく感じます。今後も調査、研究活動が、作品の展観、収蔵と結びついて発展してゆけるよう努めたく思います。平素からご支援いただいている皆様方に、改めて深い感謝の念を表します。

(学芸員 三谷 渉)

昨年度寄贈作品

No.	作者名	作品名	制作年	材質／形状	寸法 (cm)
1	潮隆雄	展象 95 - A	1995(平成7)年	絹糸・綿糸・毛糸・レーヨン糸・ビニールテープ／タピスリー	242 × 129
2	潮隆雄	溪間蘭風	2003(平成15)年	絹糸・綿糸・毛糸・レーヨン糸／タピスリー	164 × 120
3	潮隆雄	熊野への道	2004(平成16)年	絹糸・綿糸・毛糸・レーヨン糸・合成金属糸／タピスリー	178 × 125
4	潮隆雄	緑韻白韻	2006(平成18)年	絹糸・綿糸・毛糸・レーヨン糸・アクリル糸／タピスリー	156 × 120
5	潮隆雄	荒磯・海金剛	2010(平成22)年	絹糸・綿糸・毛糸・レーヨン糸・合成金属糸／タピスリー	154 × 112
6	潮隆雄	深熊野幻想・三体月	2012(平成24)年	絹糸・綿糸・毛糸・麻糸・レーヨン糸・合成金属糸／額装	92 × 73
7	潮隆雄	薄暮の海	2012(平成24)年	絹糸・綿糸・毛糸・レーヨン糸・合成金属糸／額装	71 × 91
8	潮隆雄	晨 (山里の夜明け)	2016(平成28)年	絹糸・綿糸・毛糸・レーヨン糸・合成金属糸／額装	73 × 91
9	潮隆雄	深山白瀧	2017(平成29)年	絹糸・綿糸・毛糸・レーヨン糸・合成金属糸／額装	133 × 34
10	潮隆雄	金波白浪	2020(令和2)年	絹糸・綿糸・毛糸・レーヨン糸・合成金属糸／額装	130 × 30
11	湯川雅紀	Haru	2002(平成14)年	カンバス・油彩	125.0 × 450.0
12	湯川雅紀	日輪	2010(平成22)年	カンバス・油彩	91.0 × 116.7
13	神原泰	シンガポール・乳房 作品16	1970(昭和45)年	カンバス・油彩／額装	60.5 × 73.0
14	小堀進	りんご園から望む常念岳	1959(昭和34)年	紙・水彩／額装	37.8 × 56.3
15	真野紀太郎	漂流 (流星瀬附近)	1930(昭和5)年	紙・水彩／額装	38.9 × 67.1

昨年度登録換作品

No.	作者名	作品名	制作年	材質／形状	寸法 (cm)
1	渡瀬凌雲	百事大吉	1925(大正14)年	紙・墨、着色／額装	51.0 × 29.3
2	渡瀬凌雲	黒富貴図	1927(昭和2)年	紙・墨／額装	43.5 × 30.8
3	渡瀬凌雲	河口(下図)	1932(昭和7)年	紙・墨／額装	119.0 × 150.0
4	渡瀬凌雲	熊野河畔	1934(昭和9)年	紙・墨／額装	49.7 × 34.5
5	渡瀬凌雲	梅松図	1934(昭和9)年	紙・墨、淡彩／額装	45.8 × 28.7
6	渡瀬凌雲	桃の花	1935(昭和10)年	絹・墨、淡彩／額装	129.8 × 26.2
7	渡瀬凌雲	寿曜図	1935(昭和10)年	絹・墨、着色／軸装	114.5 × 27.5
8	渡瀬凌雲	新露 (登別)	1937(昭和12)年	紙・墨、着色／六曲屏風	166.0 × 338.5
9	渡瀬凌雲	竹溪清韻図	1938(昭和13)年	絹・墨、淡彩／軸装	134.8 × 35.9
10	渡瀬凌雲	春律	1938(昭和13)年	紙・墨、着色／額装	146.5 × 182.3
11	渡瀬凌雲	秋戀飛泉図	1939(昭和14)年	絹・墨、淡彩／軸装	68.4 × 72.9
12	渡瀬凌雲	朱竹	1940(昭和15)年	紙・朱墨／軸装	133.0 × 32.0
13	渡瀬凌雲	蒼壁	1962(昭和37)年	紙・墨／額装	175.0 × 103.0
14	渡瀬凌雲	静溪雲翠	1963(昭和38)年	紙・墨／二曲屏風	121.0 × 150.0
15	渡瀬凌雲	林梢月出	1966(昭和41)年	紙・墨／額装	68.0 × 72.5
16	渡瀬凌雲	老子出関図	1973(昭和48)年	紙・墨、着色／額装	38.8 × 45.7
17	渡瀬凌雲	法隆寺新雪	1974(昭和49)年	紙・墨／額装	45.8 × 51.4
18	渡瀬凌雲	松籟泉韻	1975(昭和50)年	紙・墨／額装	70.5 × 89.0
19	渡瀬凌雲	蘇鉄	1976(昭和51)年	紙・墨／額装	46.0 × 50.1
20	渡瀬凌雲	千巖高秋(妙義所見)	1976(昭和51)年	紙・墨、着色／額装	91.0 × 116.0
21	渡瀬凌雲	アルプスの春	1977(昭和52)年	紙・墨、着色／額装	91.0 × 116.5
22	渡瀬凌雲	黄山勝遊冊	1979(昭和54)年	紙・墨、着色／画帖	24.0 × 27.0
23	渡瀬凌雲	唐陶一彩	1980(昭和55)年	紙・墨、着色／額装	63.0 × 35.4
24	渡瀬凌雲	お雛様	昭和初期頃	絹・着色／軸装	112.3 × 33.7
25	渡瀬凌雲	疎柳三思図	未詳	紙・墨／二曲屏風	122.5 × 138.4
26	渡瀬凌雲	柑子	未詳	紙・墨、着色／額装	41.0 × 30.7
27	渡瀬凌雲	碧雲團々	未詳	紙・墨、着色／軸装	46.5 × 33.7

2024年度

■田辺市立美術館

4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
展示替のため休館	①世界遺産登録20周年記念 小企画展 熊野の風景 4/13(土)～6/16(日)	展示替のため休館	②小企画展 織の表現 2024 7/6(土)～9/16(月・祝)		展示替のため休館	③世界遺産登録20周年記念 特別展 仙境 南画の聖地、ここにあり 10/5(土)～11/24(日)	展示替のため休館	④館蔵品展 近代洋画コレクション展 12/7(土)～ 2025.1/26(日)	展示替のため休館	⑤館蔵品展 文人画コレクション展 2/8(土)～3/23(日)	

■熊野古道なかへち美術館

4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
展示替のため休館	①特別展 Tomonari Hashimoto Untitled 4/13(土)～6/16(日)	展示替のため休館	②特別展 現代の織Ⅶ 佐久間美智子 7/6(土)～9/16(月・祝)		展示替のため休館	③世界遺産登録20周年記念 特別展 仙境 南画の聖地、ここにあり 10/5(土)～11/24(日)				■くまびで作ろう!を予定しています。 講師のアーティストと参加者が一緒になって作品を作るワークショップです。作った作品は展示して公開します。	